

FD 研修報告

物質生命工学コース 志村考功

平成 22 年 9 月 20 日から 10 月 3 日の期間、国際連携大学院 FD ネットワークプログラムの一環として、米国カリフォルニア州立大学フルトン校での第 4 回目の FD 研修に参加してきました。2 週間という短い期間でしたが、今までにない有意義な経験であったと思っています。FD 研修ということであり、米国流の大学での授業の進め方、授業に対する考え方について現地の実際の授業の見学、教育の専門家による授業、現地の学生に対する授業の実施等を通して学ぶことができました。英語での教育ということがひとつのテーマでしたが、期間が短いこともあり、インタラクティブな授業という点に重点が置かれたことが私にとっては非常によかったと思います。

現在、私は学部、大学院で幾つかの授業を受け持っており、そのうちのひとつは英語での授業でした。しかし振り返ってみると授業に対する教育をほとんど受けたことがありません。自分自身が学生の頃に受けた授業を見習い、又は反面教師として思考錯誤しながら授業を行っているというのが現状です。残念ながら私の授業を受けている学生は全員が高い向学心を持っているわけではありません。授業中に寝てしまう学生は少なからずいます。意欲の高い学生だけに向かって授業をするのか、なるべく多くの学生が理解できるような内容にするのか、寝ている学生にどう対処するか、成績はどのようにつけるのか等に苦慮しています。

一方、私がフルトン校で見学した範囲では寝ている学生はほとんどいませんでした。授業中だけでなく、学外からの研究者の講演会でも、講演内容がかなり高度で学部の学生には理解が難しいと思われる内容のときでさえ辛抱強く聞いている姿が印象的でした。私が訪問したときはちょうど中間試験の後で、その採点内容について多くの学生が担当教授に質問に来ていました。学生の話によると単位を落とすことは余分な金銭的支出につながり、教授が同じ部屋で聞いているのに寝るなんてとんでもない、ということでした。制度や文化の違いがあるものの現地の学生の意欲には驚かされます。

フルトン校の先生方に日本の“よく寝る”学生について話をすると大変驚いておられました。先生方の意見は総じてそのままにしておくべきではない、起こすか退室させるべきである、ということでした。教員は勉学のための教室の環境(雰囲気)を維持すべきであるという意識です。寝ている学生は授業の邪魔をしていないからそのままにしておくという私の考えは一種の手抜きかもしれません。また、フルトン校の先生方はいろいろな工夫もされていました。特殊な例ですが、夏の集中授業では、携帯電話の時間を授業の途中に設けているということでした。フルトン校でも授業中に携帯電話を操作する学生がいるようで携帯電話の時間を授業中に設けることで授業に集中できるようにしているようです。また、化学の基礎的な内容の授業を担当されている先生に授業で教科書を使用しない理由をお聞きしたところ、授業では“My story”を話すとおっしゃっていました。授業で教科書を使用するかしないかは議論のあるところだと思いますが、教員の自分の授業であるという意識の高さを示していると思います。

ほとんどの授業で教員は多くの質問を学生に投げかけ、それに対して学生がテンポよく返答をしていました。確かに特に意識の高い学生が偏って返答をしているという傾向が在る場合もありましたが、概して、ほとんどの学生が授業に参加するという意識を持っていたように思います。これは大学での教育だけではなく、小、中、高校での授業の進め方や文化的背景に因るところが多いと思います。日本の学生に対して同じように質問を投げかけてもなかなか返答がないのが現状ではないかと思います。しかし、今回学んだ手法の中には日本の学生に有効な手法もあるように思います。One-minute paper や Lecture note のような個人的なものから Small group discussion へと広げていくことは可能だと思います。教員の工夫次第では日本でのインタラクティブな授業も可能になると思います。

私の Fullerton 校での授業はメンター教授の授業の一部を担うものでした。学部学生向けの物理化学の授業で、私が担当したのは使用している教科書の第7章の“One-component phase equilibrium”になります。私の専門は化学ではないため最初戸惑いましたが、教科書を借りて週末にホテルにこもって勉強しスライドを一から作製しました。授業内容を相互に関連させるのに苦労しましたが、通常の質問以外にインタラクティブな授業を目指し Pair exercise を3つ織り交ぜました。また、スライドに示す情報量を減らすことにより学生間の議論を活発にすることを意図しました。学生のレベルがどの程度なのかを把握しきれなかったので問題の程度が適切かどうか分からない点が不安でしたが、学生に最後に書いてもらった感想は良好なものでした。実際の学生に対し授業をし、学生からの喜ばしい反応は大きな自信になります。

最後に、今回お世話になった Melem さんをはじめ Fullerton 校のスタッフや先生方に心より感謝致します。また、今回の FD 研修では杉本先生、水上先生、木下先生、Joyce 先生と大変楽しく過ごすことができました。授業中や送別会のスピーチでは大変お世話になりました。改めてお礼申し上げます。また、本研修プログラムの全体の取りまとめをされている金谷先生、日本側の事務手続でお世話になった松本さんに心よりお礼申し上げます。



Farewell Reception にて